

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 11月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270600337
法人名	社会福祉法人 栄幸会
事業所名	きたうえファミリー
所在地 (電話番号)	〒411-0044 三島市徳倉1148番 TEL. 055-980-5299 FAX 055-980-5041
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月26日

## 【情報提供票より】(平成19年 9月10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0 人, 常勤換算	8 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 450,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500	円	

### (4)利用者の概要(平成19年 9月 12 日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2	5	名	
要介護3	1	名	要介護4	1	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	85.8 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	別所医院・芹沢病院・東海病院・田村歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設内に、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス等が併設され、これら施設とあいまって地域老人会の催しの会場となるなど、地域に開かれた施設となっている。ホーム内の共用空間は広く、食卓用テーブルのほか、ちょっとした書き物ができる使い慣れた木製の机、ピアノ等が置かれ、広間の一部には畳も敷かれている等、各々がゆったりと落ち着いて過ごせるような工夫がされ、また、各居室には浴室、トイレも設備された家庭的雰囲気な漂うホームとなっている。このような環境の中、管理者、職員全員が利用者を中心とした質の高いケアサービスに取り組んでおり、職員教育も行き届いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で見出された課題について会議等で話し合い、改善計画を立てて取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は、外部評価、自己評価の重要性と意義を良く理解しており、自己評価票の作成に当たっても全員で取り組み、課題があれば改善するなど日々のケアサービスに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、第一水曜日に開催され、会議で出された課題については職員間で話し合いが持たれ、その改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議での家族からの意見だけでなく、今年8月から家族会を立ち上げ、家族からの意見、要望、苦情等を運営に反映させる体制の強化を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の祭りに地域住民も参加するなど、ホームは孤立することなく地域の一員として溶け込んでおり、地域活動・地域住民との交流は良好である。災害対策において、ホーム独自の防災委員による毎月避難訓練を実施しているが、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人達の協力が得られるよう自治会、町内会への加入を視野に入れることも望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民の交流の下で、その人らしい暮らしができるサービスを理念として掲げ、地域密着型の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等の場において、職員共通の取り組むべき事項として意識付けがされ、日々のサービス提供の場(職員の言葉かけ・諸記録)においても、理念の実践の取り組みが見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は孤立することなく地域の一員として溶け込んでおり、地域活動・地域住民との交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも自己評価及び外部評価の重要性を真摯に受け止め、会議等において評価で見出された課題の改善計画を立てその実施に取り組んでおり、改善の跡が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第一水曜日に開催し、その場で問題になった点は職員間での話し合いにより改善がされており、初期の目的が達成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の関係機関・部所との連携は蜜に行われており、三島市グループホーム研修会(9箇所)の代表を務め、4ヶ月に1度定期的に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に発行の「きたうえファミリーだより(その月の行事予定・行事スナップ・職員の外部研修における介護基礎知識及び利用者の担当者からのメッセージ等を掲載)」や利用者個々の健康状態、金銭管理等について家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見等だけでなく、8月から家族会を立ち上げ、家族からの意見・要望・苦情等を運営に反映させる態勢の強化を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は1ヶ月前、部内異動の場合は1週間前から引継ぎ期間を設けて職員の異動による影響を少なくしている。また、変わる前には利用者、家族にも話して了解を得、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修には積極的に参加をさせる機会を作っており、介護サービスの研修ばかりでなく医療関係(清拭・褥瘡等)の勉強会にも参加させ、職員の人材育成を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市内のグループホーム(9箇所)の研修会を立ち上げ、定期的に勉強会を行うなど、同業者同士の交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホーム内の環境に慣れるよう家族と相談し、本人主体のカンファレンスをしながら徐々に安心と信頼に向けた取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	惣菜の味付けなど日々の生活をする中で、年長者である利用者から生活の知恵を授かったりして身近に信頼し合える関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等からの趣味、嗜好、生活歴等の情報収集に加え、日々のケアや関わり合いの中から本人の希望や意向に添うよう生活を支えるためのアセスメントも行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望をもとにアセスメントを行い、毎月の会議で意見を出し合って本人に適した介護計画を作成している。また、作成した介護計画は家族にも報告し了解されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察や介護日誌・ケース記録等からカンファレンスを行い、月に1度あるいは状況の変化に応じた介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のデイサービスの利用のほか、利用者本人や家族の希望に応じて通院、買い物などの支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院のほか、月2回囑託医による往診が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族からの希望を尊重した終末ケアが行われている。家族・医師との連絡も密に行われ、職員間でも話し合いが持たれる等、共通の認識の基にターミナルケアに向けた取り組みが行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の各個室には、各人のプライバシーの配慮から浴室・トイレが設備されている。入室には必ず声かけがされ、記録等の個人情報にも気配りがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員側の優先とならないよう気配りがされ、利用者主体の支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや嫌いなものを把握し、食事が楽しいものになるよう気配りがされ、職員も同じテーブルで同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望により日にちを指定せず、入浴の支援をしている。入浴は急がさずにゆっくりと湯船につかるように気配りしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常生活の中から、利用者個々の得意なことや趣味を把握し活動の場を提供している。例えば、料理が好きな人、晩酌を楽しむ人それぞれの楽しみごとに支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分、希望に応じて心身の活性につながるような散歩、ドライブ、馴染みの店への買い物、花壇の手入れ等、戸外に多く出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出入りが自由にできるように開錠し、玄関には鈴を取り付け、出て行く気配を見落とさない見守りがされている。夜間は防犯のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	同一グループ内に設置の防災委員による避難訓練は毎月実施し、年1回消防分団が参加しての総合防災訓練も実施され、マニュアルも作成されているが、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施はされていない。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々の協力が得られるよう自治会・町内会への加入を視野に入れられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態により食事量を調整したり、献立は利用者の希望を取り入れ、内容は重ならないように工夫されている。しかし、水分量は器を計量しおおよその量を把握し、実際に飲んだ量を確認するのみで記録に留めていない。	○	摂取した水分量は日々記録することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、食食用テーブルのほか、ちょっとした書き物ができる使い慣れた木製の机、ピアノ等が置かれ、広間の一部には畳も敷かれる等、各々がゆったりと落ち着いて過ごせるような工夫がされている。また、採光・騒音にも配慮がされ、家庭的雰囲気が醸成されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の各居室には、それぞれ利用者が使い慣れた物や愛用していた物、仏壇、テレビ、家族の写真等が持ち込まれ、利用者が生活する場所としての環境が整えられている。		